

説明会資料

1 消防庁舎整備事業の経緯

施設の老朽化と機能の陳腐化

公共施設再編再配置計画

持続可能な施設整備の方針策定

消防本部全体の施設の見直し

2 整備対象署所

土浦消防署 南分署	
昭和58年12月竣工	
構造：鉄骨	
階数：平屋建	
建築面積	320.59㎡
延床面積	320.59㎡
敷地面積	708.02㎡
配置車両 計 3台	消防ポンプ自動車 2,000リットル水槽付 1台 高規格救急自動車 1台 査察広報車 1台
配置人員 計15名	分署長1名 1部7名 2部7名



荒川沖消防署	
昭和49年7月竣工 平成24年12月 (一部改修)	
構造：鉄筋コンクリート	
階数：2階建	
建築面積	365.43㎡
延床面積	537.82㎡
敷地面積	3361.80㎡
配置車両 計4台	消防ポンプ自動車 2,000リットル水槽付 1台 消防ポンプ自動車 1台 高規格救急自動車 1台 査察広報車 1台
配置人員 計23名	消防署長1名 1部11名 2部11名



3 検討実績

R3 内部検討委員会①

R4 内部検討委員会②

R5 外部検討委員会

パブリックコメント

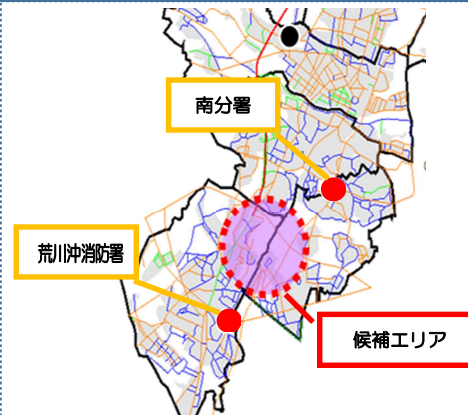
常備消防力適正配置等調査

・5署⇒4署体制
・候補エリアの選定

R6 新消防署建設用地
選定委員会

・建設予定地の選定

4 建設候補エリア



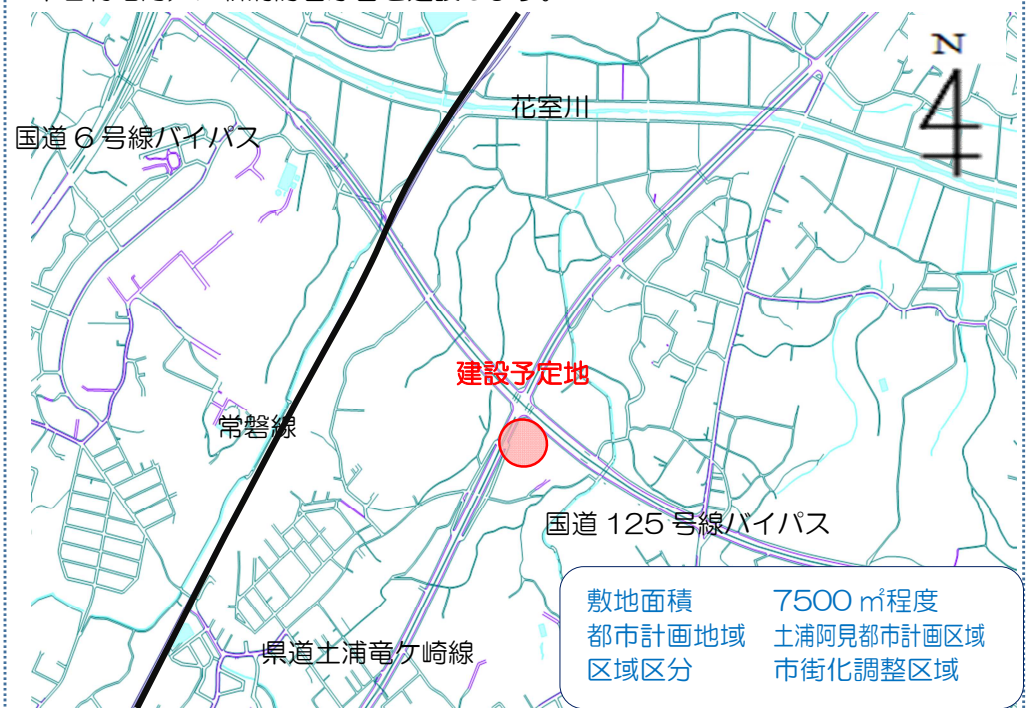
5 建設予定地の条件について

令和6年度 新消防署建設用地選定委員会

- ①常磐線より東側、かつ主要幹線道路沿い
- ②ハザードマップエリア外
- ③敷地規模及び整備の経済性・効率性の観点
- ④近隣住民への配慮

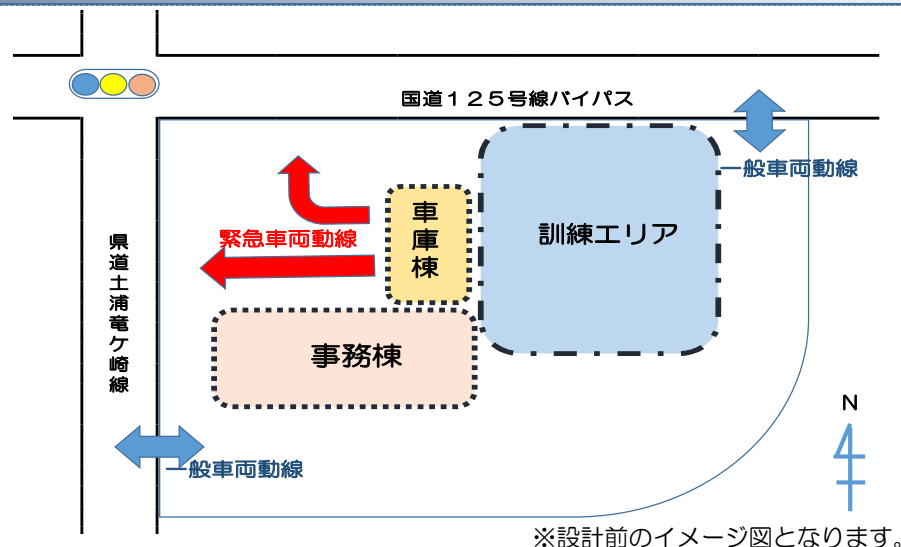
6 建設予定地

南分署と荒川沖消防署の中間地点の主要幹線道路沿いである以下の用地（土浦市右糺地内）に新消防署庁舎を建設します。



敷地面積 7500㎡程度
都市計画地域 土浦阿見都市計画区域
区域区分 市街化調整区域

7 配置計画（敷地ゾーニング）



8 新消防署庁舎のコンセプト

【基本方針】“安心・安全（SAFE）”

- S**ustainable 災害に強く持続可能な庁舎
- A**ctively 活気のある庁舎
- F**unctionality 機能性を追求した庁舎
- E**conomical 経済的な庁舎

（１）災害に強く持続可能な庁舎

地震、台風、水害等の自然災害に強く、電気やガス、水道などの社会的インフラが断絶した場合でも自立して稼働できる庁舎

（２）活気のある庁舎

凄惨な現場での活動や24時間の連続勤務など、精神的・肉体的ストレスを多大に受ける消防職員の疲労を軽減し、職員が積極的に活動することをサポートする庁舎

（３）機能性を追求した庁舎

消防の使命である災害出動に対し、素早い対応を可能とするべく、事務室から車両乗車までの出動動線の合理化、資器材を保管するスペース等の確保、消防業務の遂行に必要な設備の充実など、機能性を追求した質実剛健な庁舎

（４）経済的な庁舎

省エネルギー設計により維持管理コストを低減するほか、公共施設の長寿命化に対応し、今後の改修・修繕等の際にコストのかからない経済的な庁舎

9 消防署統合・移転による運用効果

住民参加型訓練の実施

- ・自主防災訓練
- ・救急講習

治安維持の向上

- ・24時間職員が常駐

持続可能な消防行政の維持

- ・2署にかかるランニングコストを削減

市南部の防災拠点

- ・土浦消防署に次ぐ消防力を持つ拠点

消防力の集約による体制強化

- ・乗り換え運用の強化
- ・救急隊不在率の低下

施設充実による効果

- ・本部バックアップ機能、女性職員の活躍拡大、救急消毒室の整備、訓練効果の向上・・・等

10 事業スケジュール

	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
消防力適正配置調査	→				
基本構想策定	→				
基本計画策定		→			
用地取得			→		
基本設計・実施設計				→	
造成工事					→
庁舎工事					→

※現時点での想定であり、今後の進捗により変動することがあります。